

沖縄訪問記

山本みはぎ

5月24日から28日まで、沖縄に行ってきました。24日は中部空港から石垣島に行き、翌25日には、石垣島で基地監視活動を続けている、「基地いらないチーム石垣」の上原正光さんに、海上保安庁の施設や、石垣駐屯地を案内していただきました。25日夕方には、那覇に移動し、翌26日は、早朝から平和市民連絡会のバスで安和へ。午前中、安和での阻止行動に参加し、午後は塩川に移動しました。

27日は、高江と辺野古に行き、台風が近づいているため予定を繰り上げて帰路につきました。各地の様子を報告します。

石垣島海上保安庁施設

石垣空港からホテルまでのバスの移動で、驚いたのは、リゾートホテルの玄関横づけでバス停があったことです。途中のバス停で乗る人はほとんどおらず、観光客、それも大きなリゾートホテル専用バスのようでした。

上原さんは、石垣島出身ですが40数年間、川崎で郵政職員として働きリターンをした方です。農業をやりながら、自衛隊基地の監視活動を続けています。今は、ドローン規制法の対象施設になったことからなかなか監視活動も大変だと話してくださいました。

最初に案内をしていただいたのは、石垣港内にある第十一管区海上保安本部。石垣市、竹富島、与那国町、宮古島市、多良間村を管轄し、全国で最大規模の保安本部で、大型巡視船19隻、人員は1700人余りのことです。実際に、港には、巨大な巡視艇が何隻も係留されており、その大きさに圧倒されます。

中国や台湾とも国境を接しており、尖閣諸島も管轄することから尖閣領海警備専従体制が整備され、



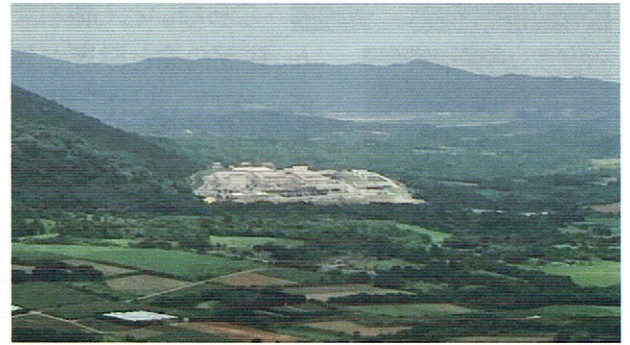
2021年には、海上保安庁で最大級のヘリコプター搭載型巡視船「あさづき」が配備されています。海保は、海の警察組



織と言われていますが、機関砲やヘリの搭載など、武装化も進んでいます。今年3月には、石垣港からミサイル発射機などが、車両約150台で駐屯地に搬入されました。その船の多さと、武装化した船体を見ると、国境の港の緊張した様子が垣間見られました。

陸上自衛隊石垣駐屯地

次に案内をしていただいたのは、3月に開設した陸上自衛隊石垣駐屯地です。沖縄で最高峰の於茂登岳の中腹に、緑の山を切り開いて無機質な基地の全景が見えます。元はゴルフ場だった場所が基地建設の用地となり、総面積は、約47ヘクタールで、火薬庫4棟や車両整備場などの施設を有します。基地内では、



まだ工事が進んでおり、ブルーシートで土留めされた火薬庫1棟の建設が進んでいるのが遠くからも確認されました。屋内射撃訓練場など、今後も建設が予定されています。基地の外にも隊員の宿舎が3ヶ所建設されています。配属されるのは、第303地对艦ミサイル中隊(約60人)と第348高射中隊(約70人)、八重山警備隊(約340人)で、全体で約570人が配置されています。12式地对艦誘導弾や、03式中距離地对空ミサイル、中距離多目的ミサイルや81mm迫撃砲などの弾薬が搬入され、弾薬庫から150mほどのところに、約30世帯が暮らしています。

基地正門前に移動すると、威嚇をするように、小銃を携えた隊員が二人立っています。小牧基地や守山駐屯地では見ない光景です。

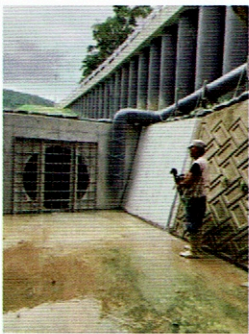


別の工事中のゲートでは、数日前と比べると格段に工事が進んでいるということです。基地周辺は、島の水源になっている宮良川の支流にあたる。基地内の2か所から水が流れるそうで、工事していたのはその一か所でした。道路に地下には、暗渠があり工事

中の上流の基地から水が流れ出ていました。流れ出す先は川ではなく湿地帯になっているところで、素人目にも基地から流れ出る水が広範囲に広がるのがわかります。あとで知ったが、工事の着工を早め、環境影響評価条例(アセスメント)の適応を除外するという姑息なことをやったそうです。環境アセスを実施しなければ、水源が汚染されているかどうか、住民は知ることはできません。沖縄島などで、米軍基地



や自衛隊基地から有機フッ素化合物流出するということがありました。石垣駐屯地でも、同様なことが起こらないとも限りません。住民の命と健康が蔑ろにされていると言っても過言ではないでしょう。



石垣島では、「陸自配備の賛否を問う住民投票」を、有権者の30%を超える、1万4263筆の署名を集め、住民

投票を請求したが、市議会で請求が否決されています。住民投票を巡る、二つの裁判で一つは最高裁で棄却され、もう一つは高裁で敗訴になり、住民の直接請求の機会が今も奪われています。

上原さんは、島の中でなかなか反対運動がしにくくなっていると言います。罰則を伴ったドローン規制で基地監視もリスクが伴い、それでも地道に監視活動を続けています。この、石垣駐屯地にも、三菱小牧北工場で改良された、12式地对艦誘導弾(ミサイル)が配備される。自然を破壊し危険なミサイル基地建設が進む石垣島の方たちとどうつながるのか、考えさせられた石垣島での時間でした。

名護・安和と塩川へ

平和市民連絡会のバスで、朝7時に県庁前から安和棧橋へ。名古屋からという、高江の機動隊派遣の話が出て、バスの中で簡単な報告をしました。9時過ぎ、安和に到着。すでに、何人が入り口でダンプの阻止行動を始めており、ダンプの出口でも阻止行動が行われてい



ました。安和棧橋の入り口は、3方向からダンプが入り、狭い入口に三方向から入ると過密になり危険だ。初めてではなかったものの、先発で行動をしていた女性から、入り口を横断するタイミングを教わる。なるほど、交差点中央にダンプが止まることで交通の妨害にならないようにし、効率よく歩けば確実に止められるということがわかりました。入り口の防衛局の職員が警備会社の人で、常に抗議活動に対して中傷してくるのはまったくくうとうしい。

午後からは塩川へ。塩川の阻止行動は、初めてでしたが、日陰もなく休憩するところもなく、トイレも離れているという大変な現場でした。この現場に、週三日通っているという人がいました。辺野古の新基地を止めたいという思いの強さも感じました。

高江へ

最終日は、高江のブロッコリーハウスで、伊佐育子さん、清水暁さんにお会いしました。昨年、7月に高江の座り込み15周年の集会に行ってきた。ハウスには、最高裁の上告棄却の通知書が立派な額に入れて飾ってあり、改めて、名古屋で闘ってきたかいがあったと思いました。



アキノさんの件で、清水さん宅は家宅捜査を受けたそうです。清水さんの行動パターンを把握し、タイミングよく来たそうです。また、5月に、土地規制法の注視区域と特別注視区域161ヶ所が指定され、自衛隊駐屯地がある石垣、宮古、与那国など沖縄県内39カ所が対象区域になりました。今回、沖縄の米軍基地は指定されなかったものの、近い将来必ず指定されるということで、危機感を持っているといいます。

N1ゲート前は、住民の会のテントやタテカンが撤去され、今は、週三日、看板をつけた車でゲート前で監視活動をしているとのこと。7月には座り込み16周年のイベントが行われますが、施設を借りるのを拒否されたとのこと。一見、静かでのどかなやんぱるの地では、緊張が今も続いていることを実感させられました。

久々の沖縄は、今、タガが外れたような憲法破壊の大軍拡の実態が如実に表れていることを改めて垣間見た時間でした。沖縄という生の現場を知ることは大切なことだと思う。